

未来創造人

横浜支店
管理部
すずき みさと
鈴木 美里

たまたま降りたJR秋葉原駅前で見にした首都高速道路と一般道路。この景色が鈴木さんの進路を決定づけた。「身近だし、なくてはならないインフラだと、道の存在に気づいた瞬間でした」。

初配属の本店人事部では、健康診断の管理や新入社員の入社手続きなど、多くの部署と関わる仕事を経験。当時から大切にしていたのは「人を先入観で決めつけない」と話します。



人とのつながりを大切に、

一歩ずつ前に進む

一面だけで人を判断せず、誰に対しても敬意を払って接する。そんな姿勢は、相手への配慮を忘れない、関係部署への連絡メールひとつにも表れています。

横浜営業所に異動して初めて経理業務を経験。「要領がいい方ではない」(鈴木さん)だけに、仕事が軌道に乗らず、苦心する日々が続きました。大きな支えになったのは周囲の励まし。「何でも相談できる環境が、今も大きな助けになっています」。今年4月から横浜支店へ異動し、神奈川県内の拠点を包括する業務をスタート。「横浜をはじめ、県内のなじみ深い場所を工事していることが誇らしい」とはにかむ笑顔が印象的でした。

きっと、未来に続く道

KIT PLUS

特集

自分らしく
未来へとつながる
鹿島道路の
新しい働き方



特集

自分らしく 未来へとつながる 鹿島道路の 新しい働き方

誇りを持って仕事をする。
自分の人生を充実させる。
どちらも大切にするために、
これまでの「アタリマエ」を見つめ直し、
私たちは新しい取り組みを始めています。
誰もがいきいきと輝く未来を目指す、
鹿島道路の「今」をお伝えします。

施工中の工場・倉庫棟(六街区)に並び、
首都圏連携のチームメンバー。



Case 01
支店間のつながりがカギ
首都圏連携で
広がる可能性



▶ P.4

Case 02
自分に合う働き方の選択がカギ
もっと自由に。
横浜ダイバー
シティー



▶ P.9

Case 01

支店間の
つながりがカギ



首都圏連携で広がる可能性

鹿島道路では、近隣支店が連携してプロジェクトを進める取り組みを加速させています。大規模な工事の受注が可能になるのはもちろん、各支店の力を結集することで、働き方の改善にもつながるさまざまなメリットが生まれています。

Project : BEGINNING

首都圏連携 プロジェクトに向け チームを結成

古くは日光街道の宿場町として栄えた茨城県古河市。県内有数の工業都市でもある同市の仁連工業団地^{にれい}で、2022年7月から青伸産業運輸株式会社^{※1}の工場・倉庫棟新築工事^{※2}が行われています。



写真左から
CADオペレーター・事務
担当の小嶋 智子さん
施工管理・工務担当の
山下 直紀さん

2棟の工場・倉庫棟のうち、平屋建ての五街区は23年4月に完成。現在は2階建てで規模の大きな六街区の施工が進められています。このプロジェクトには、関東、東京、横浜の首都圏3支店の建築社員で参画。さらに派遣社員3名（現在は2名）が加わってチームを形成しています。チームのけん引役を担うのは、多くの大規模物件の管理を手掛け、今回、現場代理人を務める関東支店の畠山さん。畠山さんは、主に五街区の管

▶ 施工・工程・品質管理

東京支店

建築工事
工事主任
くさき だいぢ
草木 大地

▶ 現場代理人

関東支店

建築工事
課長代理
はたけやま まさし
畠山 昌志



理業務を担当する横浜支店の近藤さんと、六街区を担当する東京支店の草木さんに対して、業務の指示のみならず、技術的な指導やこれまで積み重ねてきた現場管理のノウハウを伝えることも、重要なミッションと捉えていました。「工事前半は、私なりの手法を実践して彼らに教えることに重点を置いていました」と畠山さんが語るとおり、まず自分が率先して動き、業務に当たる自らの“背中”を見せることを心がけたそう。一方、メンバーのワークライフバランスを考慮し、人手が不足している業務に派遣社員の採用を決定。人材派遣会社との面談を何度も行い、必要なスキルを持った人材を確保することで、適材適所でメンバーが活躍できるチームづくりを目指しましたと畠山さんは語ります。またその頃、草木さんは協力業者の対応の違いに戸惑いを感じて

いました。「支店ごとに依頼している業者さんが違うので、優先事項ややり方もそれぞれ異なり、調整に苦心しました」（草木さん）。複数の支店が連携して仕事を進める上では、時に自支店の「いつものやり方」を手放す必要もあったと振り返ります。限られた工期で、作業の質を維持しながら確実に施工を進める。絶対的な使命を前に「最初は手探り状態の現場運営でした」と語る畠山さん。派遣社員との業務分担を含め、首都圏連携プロジェクトとしてのチームづくりが完成を迎えつつありました。

※1 青伸産業運輸株式会社(本社:東京都青梅市)
※2 元請:株式会社ヨシザワ建築構造設計のもとで施工

Best Team Performance

Project : BREAKTHROUGH

チームの一体感が 増し、家族との時間も 持てるように

今回の現場では基礎掘削にICTバックホウを導入し、作業の効率化を図るとともに、出来形管理に要する時間も短縮。工場・倉庫棟の要であるコンクリート床の仕上げは人が乗って操作する機器・騎乗式トロワェルを使用して、精度の高い滑らかな床を完成させました。さらに、従来はトランシット^{※3}で目視し、トランシーバーで交信しながら傾きの調整を行っていた鉄骨の建方作業も、自動計測したデータをスマートフォンで確認できるシステムの活用も試行。実利的な効果だけでなく、これまでICT技術の活用経験がなかった草木さん、近藤さんにとっても大きな収穫となったようです。

入社3年目の近藤さんは、まさに先輩たちの背中を追いかけている

真っ最中。「畠山さんからは書類の作り方や安全管理への意識などを学んでいます。草木さんには現場内でよく質問するのですが、何でも答えてくれてありがたいです」と感謝する姿が印象的でした。

ICTの活用に加えて、それぞれが自分の担当業務を確実に遂行できるようになるにつれ、チーム内に漂っていた緊張が解け、一体感が増していきました。同時に業務時間も削減でき、畠山さんは「家族との時間を多く持てるようになりました」と目を細めます。

また、毎日の円滑な業務に欠かせないのが、派遣社員の2人の存在です。工務担当としてさまざまな業務に当たっている山下さんは「縁の下の力持ち」的存在。天井の電気配線を行った際は、鏡面仕上げのコンクリート床に跡がつかないように高所作業車にタイヤカバーをかけるなど、きめ細やかな気配りで作業をバックアップしています。CADを使った施工図の作成や事務を担当する小嶋さんは、現場管理業務もサポート。事務所

に絶えず響く明るい笑い声からも、2人がプロジェクトの一員として皆と信頼関係を築いていることがわかります。小嶋さんは「徐々に距離が縮まって、今では家族のように感じることも。竣工後に離れ離れになることが、今からもう寂しいです」と話してくれました。

今回の連携で「新しい業者さんとの関係が築け、知識も広がった」（草木さん）「これだけの規模の現場を体験できて自信につながった」（近藤さん）と、それぞれが確かな成長の手応えをつかんだ様子でした。そして「人が少ないことで諦めなければならない案件も、手を携えれば可能になる。ポジティブな連携が増えていけばいいと思います」と畠山さん。首都圏連携という新しい協働の形が生み出す可能性に、大きな期待が寄せられています。

※3 角度を測定する機器



写真左 畠山さんの愛妻弁当は、彩り良く栄養バランスも満点
写真右 事務所での円滑なコミュニケーションをとるチームメンバー



Work Life Balance

Project : OUTLOOK

「首都圏連携」が目指すもの

首都圏連携の背景には、各支店に在籍する建築工事の社員数が少ないという課題があります。そのため、1支店のみで受注できる物件規模と数には限界が生じていました。また、従来から支店間の協働はなされていたものの、各支店によって提出が必要な書類書式が異なる場合もあり、類似した作業の重複も起こっていました。

そこで関東・東京・横浜の3支店を一つの枠組みとして捉え直し、見積もり段階から完成まで一貫した連携体制を築いて、受注・売上・利益を3支店で分配する「首都圏連携」を積極的に推進する方針を決定。これまで難しかった大規模物件の受注も可能にする、柔軟な組織づくりをスタートしています。同時に支店の垣根を越

About the Project

青伸産業運輸株式会社
SLC古河 五街区・六街区工場新築工事

発注者：青伸産業運輸株式会社

注文者：株式会社ヨシザワ建築構造設計

工期：2022年7月25日～2023年7月31日

工事場所：茨城県古河市

えて個人が持つ経験やスキルを共有し、若手社員の成長につなげることも目的としています。

また、支店間の相互理解を深め、組織としての一体感を高めることによって、生産性や働きがいの向上も目指します。さらに、現在は支店ごとにバラつきのある繁忙の差を少なくした上で残業時間の平準化を図り、多くの人が働きやすい環境づくりを進めていきます。

今後は、東日本、中日本、瀬戸内エリアなど、全国規模で支店間連携を展開する見通しです。

Point | 評価のポイント |

若い社員は口に出さないだけで、心に秘めた夢を持っていると感じています。「こんな建物を建ててみたい」「こんな仕事に携わってみたい」という夢、いつか支店の垣根を越えて実現してくれることを願っています。



建築事業部長
やまざき もとしい
山崎 基



2023年4月に竣工した
五街区工場



もっと自由に。Yokohama diversity
横浜ダイバーシティ
 横浜支店横浜営業所では、女性社員がいきいきと活躍しています。笑顔があふれる働き方の秘訣を、皆さんに語っていただきました。

Case 02
 自分に合う働き方の選択がカギ



営業所内の雰囲気



鈴木 最近女性が増えたよね。みんなさっぱりして、男女問わず仲がいい。



下田 役職や年齢の隔たりもあまり感じないのは、単に私たちが図々しいだけかも(笑)。



小林 仕事が重なってパニックを起こしていたら「一回落ち着け」って声をかけてくれたり(笑)、アットホームな雰囲気ですね。



鈴木 みんな誰に対しても嫌な顔をせずに接して、かつ変に干渉しないところがいいなって思います。当たり前かもしれないけど、意外と当たり前って難しいから。



下田 そうだね。その反面、誰かが病気で休んだりしたときはできる範囲で手伝ったり、持ちつ持たれつで。だからお休みも取りやすい。

私の有休リフレッシュ法 →→→

高橋 土日によくキャンプに行くだけで、月曜を有休にして、体を休めつつキャンプの片付けをする、という使い方もしています。

鈴木 私は前職の後輩と月イチくらいで旅行に。平日を1日はさむと混まなくていいよね。

小林 私はディズニーランドや野球観戦。声出し応援が好きで、GWに観戦したときは、完全に喉をからしちやいました(笑)。

下田 うまく有休を活用してリフレッシュしたら、仕事のモチベーションも上がるよね。
一同 うんうん。

十人十色の「自分らしい働き方」

下田 派遣社員として横浜支店に入った当時から女性が働きやすい職場だなと思っていました。

鈴木 私は以前の職場が金融関係で、残業も多いしとにかく仕事がつらかった。だから今の環境がすごく心地よくて。小さなお子さんがいたら時短勤務にできるし、長い目で見ると働きやすいんじゃないかな。

鈴木 自己申告制度で異動やそのときの状況に応じた働き方を相談できるから、そういう意味でも働きやすいですね。

下田 私の理想は健康で仕事を楽しみながら、定年まで働くこと。ところで、絵理華さんは資格をいっぱい持ってるよね。

高橋 資格マニアなんで(笑)。前職で切り下げ工事の申請に関わる業務をしていたスキルを生かして、工務課の残業時間削減につなげたい。

下田 現場のことは私たちがわからないことも多いから、とっても頼もしい。

高橋 業界的に現場に関わる女性が珍しがられる部分はまだまだあるので、まだまだ男性社会なんだな、って感じることはあるけど。

小林 私は、女性が少ないぶん現場の作業員さんにすぐ顔も名前も覚えてもらえるし、現場の体験談を聞くうちに自然と知識が身に付いていくメリットも感じていて。



高橋 確かに。横浜営業所は外構工事が多いけど、テンション上がる現場ってあるよね。

小林 今の現場の動物園がまさにそう。こういう仕事がやりたくて入ったので、遊びに来ている小さい子を見ながら、「よし頑張ろう!」って思っています。

高橋 鹿島道路は女性仕様のヘルメットや反射チョッキの準備があるんですよ。かじまるこちゃん*のイラストが入っていてカワイイし(笑)、ちゃんと配慮してくれているんだなあって。

鈴木 二人は現場にも出ているけど、以前はそういう機会が女性にはあまりなかった。これからはどんどん変わっていくと思う。

※鹿島道路のイメージキャラクター

| 女性社員の活躍こそ働き方改革のカギ! |

現場社員の仕事を削減するため、1年ほど前からバックオフィス業務を担う社員を増やしました。例えば、図面作成、見積作成などといったバックオフィス業務を切り分け、各人にスペシャリストとして担当してもらっています。彼女たちの力を活用して、横浜営業所全員の業務量の平準化とさらなる効率化を進めていきたいと考えています。



横浜支店
横浜営業所 所長
たかぎ あきのり
高木 昭典